W校中高等部だより

のみの市特集

平成三十年（２０１８年）十一月十一日

ニューヨーク補習授業校ウェストチェスター校



十一月十日に中高等部主催の「のみの市」が開催されました。九月一日には第一回のみの市委員会が開かれ、そしてその日からのみの市委員を中心に、今年度の生徒会の目標の「常に全力」をテーマに、中高等部全員がそれぞれ一人ひとりが力いっぱい活動してきました。

今年は、中等部一年一組・一年二組・二年生・三年一組・三年二組・高等部による六つのグループに分かれてブースを出し、各学年とも幼児部初等部向けのゲームコーナー、各家庭から出品していただいたバザーコーナー、保護者の方々からなるベーク製品コーナー、そして生徒たちのアイデアを凝らした食べ物コーナーに分かれて出店しました。

九月から始まったのみの市委員会では、最初に収益金の寄付先を決定しました。今回の寄付金は、北海道ゆかりの会（地震災害基金）へＮＹ日系人会を通して送ることになりました。二か月の取り組みで、各クラスの出し物を決定したり、幼児部初等部向けのゲームを決めたり、各出し物の担当者を決めたりと毎週忙しく会議を重ねてきました。

出展内容がなかなか決まらなかったり、細かな点で意見が合わないことがあったりといろいろなドラマがありましたが、思いはひとつ、できるだけ寄付金を集めようと、「常に全力」で取り組みました。

のみの市当日、保護者の方々による準備から始まり、十二時少し前にはすべての準備が整いました。幼児部のかわいいお友達が来場したところから会場内は緊張感が広がり、のみの市の雰囲気が高まりました。初等部の保護者の方々や生徒の皆さん、一般のお客様、卒業生などが来場し、一時は身動きが取れないほどの混雑ぶりになりました。すべての生徒が忙しく体を動かし、お客様のために最高の笑顔を作り、「常に全力」で一生懸命頑張っていました。

計画に大きなずれもなく、のみの市は無事終了し、保護者の助けを借りながら後片付け、そして各クラス会計担当による集計も終了しました。最後に今回の集計結果が生徒会会長の保山健人さんから発表され、収益金の合計は３８３３ドル９５セントでした。３５００ドルを超える売り上げで、会場から大きな歓声が上がりました。生徒たちはこの達成感を忘れることはないでしょう。

のみの市当日、またのみの市開催に至るまでの過程で色々とご支援いただきました保護者の皆様方には心から感謝申し上げます。



私の初めての蚤の市

中等部一年一組　　シュワルツ　吾知

私には二つ年上の姉がいるので、蚤の市には買い物をしたりゲームをしたりと、お客さんの立場で参加してきました。その時、蚤の市をやるには、当日と前日ぐらいが大切で、それ以外の日はそれほど大切ではないと思っていました。けれど、蚤の市をやってみてわかったことは、当日の楽しそうな仕事をするまでに、いろいろな準備をしなければならず、最初から最後まですべての経験が、私にとっては授業で学ぶことと同じくらいとても意味のある経験だということでした。

そして、この経験から学んだ中で、最も印象に残ったことは、人と打ち合わせをしたり作業をしたりする中から、それぞれの人の今まで見えなかった部分を知ることができ、それがその人を理解するきっかけになるのだということを実感したことです。

私が蚤の市のポスターを描いていた時に、普段あまり話さない人と一緒に話す機会がありました。きっかけはポスターを描いていたので、そこからコミックの話になったのです。私は、自分以外にもアメリカのコミックに興味のある人がクラスにいるとは思っていなかったので、少しびっくりしました。なぜなら、四月の自己紹介の時に好きなことについてコミックのことを話した人がいなかったからです。



人は一見してどんな人なのか判断できないし、理解するのは難しいです。人には、玉ねぎの皮が重なるようにいろいろな個性が重なっています。蚤の市に向けてみんなと仕事をしていくうちに、それぞれの人が持っている今まで知らなかったいろんな部分を、玉ねぎの皮を一つ一つ剥いていくように理解できたこと。それは本当に意味のある経験だったと思いました。

初めて「のみの市」

中等部一年一組　　小泉　穂花



「売り切れた～。」

二〇一八年十一月十日は、私にとって初めての「のみの市」でした。十月の半ばから準備をしていた私たちは、この日が来るのをとても楽しみに待っていました。

私たちのクラスでの出し物は白玉とミステリーボックスでした。白玉は三つで二ドルで売り、きなこ、あんこ、みたらしの三種類を売りました。ミステリーボックスは、三つのボックスの中に五つずつ物を入れました。これは、そのボックスの中に手を入れて何かを当てるゲームです。



このゲームは幼児部と初等部六年生が二十五セントで遊びました。私たちは幼児部に遊んでもらいましたが、幼児部の子たちには少し難しそうでした。次は、ベークセールの販売を手伝いましたが、すぐに売り切れました。そして私が雑貨売り場を手伝いに行ったところ、あまり売れてないようだったので私は全力で手伝いをしました。けれど私が一番楽しかったのは呼びかけをしたときでした。そのお陰で「のみの市」にたくさんの人に来てもらうことができました。その後に白玉を売ろうと思って白玉の所へ行ったら売り切れていたので、また雑貨売り場を手伝いました。私たちのクラスは六百ドル近くのお金が集まり、「のみの市」で集まった合計金額は三千ドル以上で、たくさんのお金を北海道に寄付することが出来ました。

初めてで何も分からなかったけど楽しめたので、来年の「のみの市」がとても待ち遠しいです

初めてののみの市

中等部一年二組　的場　千奈

「のみの市の実行委員になりたい人はいますか。」担任の先生が、クラスの人達に聞いた。しかし、誰も手を挙げない。私は挙げるかどうか迷っていた。「どうしよう。初めてだから怖いな。」その時、クラスの一人が手を挙げて、「私、実行委員やります。」と言った。緊張していた空気が少し和らいだ。そして、私も少し考えた。「これは良いチャンスではないか。」と思った。「私も実行委員やります。」と手を挙げた。ここから、私ののみの市実行委員としての活動が始まった。のみの市は中等部からの行事なので、初等部の時は買うだけだったので、実行委員があるということは知らなかった。第一回目の実行委員会には「緊張するなぁ、うまくできるかな。」と少し不安な気持ちでのぞんだ。ミーティングでは、どこにお金を寄付するか、どのクラスがどのゲーム、食べ物、飲み物を出すか話し合った。短い時間の中でやったので話について行けないこともあったけれど、最終的にはちゃんと理解できたので安心した。実行委員会で話し合ったことや大切な連絡ごとは、クラスのみんなに伝えた。クラスでは、寄付先の候補を決めたり、クラスのゲームや販売品も決めた。ゲーム決めが少し難しかった。ゲームの場所が狭いため、最初に候補にした射的は厳しいことが分かり、他のゲームに変更することにした。そうして、実行委員とクラスの人と一緒に沢山の計画を立てているうちに、当日になった。のみの市の当日は、朝の早い時間帯から第二カフェテリアがボランティアの保護者の方でいっぱいだった。補習校に入った瞬間、今までに感じた事がない楽しみと緊張の混ざった気持ちを感じた。「みんなでのみの市当日のために頑張ってきたから、今日は全力を出そう。」と思った。三時間の短縮授業をやった後、最終準備をして、ついに始まった。最初は幼児部の子たちが来た。幼児部の





かわいい子たちを見たら、少し緊張が和らいだ。小さい子と触れ合う機会はふだんあまりないので、どうしたらいいのか少しとまどった。でも、雑貨を販売していて品物を優しく「はい、どうぞ。」と渡したら、ニコッと笑ってくれたので、嬉しかった。次は初等部六年生の人たちが来た。私のクラスのゲームは会場の一番奥だったので、最初の方はあまり人が来てくれず、「ボーリング楽しいですよ。」と大声で宣伝した。そうしているうちに、何人かが私たちのゲームに来てくれて、遊んでくれた。気づいたら、次は一般公開の時間になっていた。一般公開がスタートした瞬間、大勢の大人や子どもが入って来た。一般公開では、飲み物や食べ物も売った。私のクラスはバブルティーを売った。実行委員だった私は、クラスの人に「私たちって、どこのローテーション？」と聞かれたり、時間ごとに担当場所を移動したりして、とても忙しかった。私のクラスにバブルティーの売れ行きはなかなかよかったと思う。バブルティーはタピオカ入りのジュースだ。マンゴー味とカルピコ味を売った。ジュースの中にモチモチとしたタピオカが入って、とてもおいしいと思う。私は、友達と協力してタピオカと氷とジュースをカップに入れて、バブルティーを作っていた。最後の方は、もうほとんどローテーション関係なく、みんな色々なところを助けていた。そして、反省会をした後、ついに売り上げの合計金額が発表された。その金額はなんと三千ドルを超えていた。私は、それを聞いて、とても嬉しかった。協力して頑張ったのみの市で三千ドルも集められて驚きの気持ちもあった。今回、のみの市をやるのは初めてで、代表になったのも初めてで、正直、不安しか最初はなかった。実行委員の人たちは、のみの市の準備の中心となる人たちだったので「本当に私で大丈夫かな。」と思うこともあった。でも、ミーティングの時は、クラスメイトや他のクラスメイトの人たちとも話せて楽しかった。当日も、みんなをちゃんとまとめられるか心配だった。しかし、その心配はのみの市が始まったと同時になくなった。みんな自分たちで行動していたので、心配する必要はなかった。時間がとても早く過ぎていった。私はのみの市の実行委員になって良かったと思う。最初は緊張していたのみの市、しかし、みんなで協力して取り組めたのでとても印象に残った。今までやった事のない事に挑戦するのも良い事だと思う。来年も今年のように、そしてそれ以上に楽しいのみの市にしたい。



蚤の市の感想

中等部一年二組　　大西　琳太朗

今日は待ちに待った蚤の市。三時間の短縮授業を終えた後、エプロンや三角巾を付け、第二カフェテリアに行きました。第二カフェテリアは、親たちのお陰で、蚤の市が出来る体制になっていました。テーブルなどがセットされて、材料など

も置いてありました。さて、ここからが僕たちの出番です。早速、僕らは準備に励みました。ゲーム係は、ボーリングの準備をし、テープでレーンを作るなどしました。そのグループは、仕上げにレーンのスタート地点に、「スタート」と言う文字をテープで書くことに成功しました。ベークセール係は、ベークセールの場所に行き、売り物を並べたり、会計の準備などをしました。僕たちのクラスは、ドーナツやどら焼きなど、いろいろな物を売っていました。ちなみに僕はシフォンケーキを作って、持参しました。僕のグループは、初めは雑貨係でした。僕たちも雑貨の販売の準備のため、雑貨のコーナーに行きました。そこには、ぬいぐるみなど、さまざまなものが売られていました。その後、蚤の市は順調に進みました。ベークセールは完売し、クラスの出し物（バブルルティー）も完売寸前のところでした。雑貨は、さすがに完売とは行きませんでしたけれど、売っていたものの大半が売れました。さて、バブルルティーを売ろうとしていた僕のクラスメイトは、色々な工夫をして売っていました。それが、この日、一番心に残ったことでした。そもそも、この蚤の市は、災害にあって様々なものをなくした人たちのためにやっていたことなのです。ただ単に売ろうとしていたのかもしれませんが、災害にあった人達のす。僕の大叔母も北海道地震があった北海道にいました。大叔母は、凄く被害を受けたわけではありませんが、彼女みたいな人たちのために働けることは嬉しかったです。蚤の市が終わって、片づけた後、教頭先生が、一日のことを振り返り、将来のためのアドバイスをくださいました。教頭先生は、この経験が、将来、役に立つとおっしゃっていました。蚤の市の手伝いをしたくなかった人もいたかもしれない、それでも手伝ったということは、将来、役に立つとおっしゃっていました。この蚤の市で、僕は二つ成しとげたことがあります。一つ目は、他の逆境にいる人のために、頑張るということです。二つ目は、やりたくなくても、やる、ということです。蚤の市で、将来、役に立つスキルをちょっとだけ使えたと思います。



のみの市

中等部二年一組　　中　柊也

僕にとって初めてののみの市。準備の時から期待でいっぱいでした。　中学二年は生徒数が少ないので大丈夫かなと少し不安もありましたが、人数は少ないながらも皆で一生懸命アイデアを出し合い、作るものを決めました。それから、のみの市委員を中心に役割を決めて次々と進んでいきました。そして僕はのみの市の前日にクラスの出し物であるレインボーゼリー作りを始めました。五色のカラーを一段一段固めて作るので時間がかかります。僕はあまりゼリーを作ったことがないので、初めは失敗したらどうしようかと心配しながら始めましたが、一段目がうまくできたことでどんどん楽し



くなってきました。そして無事全て作り終えて当日を迎えました。

当日の朝はゲームの準備、レインボーゼリーやポスター作りなどを進めていきました。そしてのみの市本番が始まり、緊張が漂う中幼稚部の生徒たちが来ました。その生徒たちに僕たち中等部が教えつつ、幼児部の生徒たちは苦戦しながらも楽しそうに割りばし鉄砲で遊んでいました。僕たちが一から作った割りばしで、たくさんの子供たちに遊んでもらえて嬉しかったです。そしていよいよ前日から僕たちが用意したゼリーの販売です。「たくさんのお客さんが来るといいな」という思いでゼリーの販売に臨みました。トッピングのフルーツを用意し、お客さんの希望によって作り、ゼリーは次々と売れ始めました。忙しくしている中で、一つずつ売れていく喜びを感じていました。途中からはクラスの友達と手分けしてこちらから出張販売もしました。その戦略は的中し、たくさん売れました。嬉しかったです。さいごは完売することが出来て達成感でいっぱいでした。



このみの市のクラス活動で、少ないクラスメイトでも見事に皆で協力しあって成功したので、より良いクラスになったと思います。そして自分たちで考えて、自分たちで販売するというとても素晴らしい経験ができて良かったです。また、この売上金が北海道の地震被害者の方々の役に立ってもらえるといいなと思います。

のみの市

中等部三年一組　中島　一葉

今年もたくさんクラスの出し物が売れて、満足です。ベークセールと出し物は完売して、ゲームは幼児部さんには楽しんでもらえたのですが、小学六年生にはあまり魅力的ではなかったらしく、それだけ少し残念です。他はとても良かったと思います。



最初は、クラスがまとまらず、結構心配していたのですが、結果的に良かったと思います。本当に、途中からも危うい場面がたくさんありました。

その一つは、出し物がなかなか決まらなかったことです。飲み物を出すことまでは決まったものの、そこからなかなか進みませんでした。コストや味、色、そして中一も飲み物を出すことになったことで、「どうしたらもっと売れるか」や、「何を売ればもっと売れるか」と考えているうちに時間だけ経っていってしまいました。本当に心配しました。そのうち、飲み物だけではなくポップコーンも一緒に売ろうという意見が出てきて、「いや、マジで言ってんの？」って思いましたが、スーパーとかで買ったほうが安いということでやめました。



そのあと、今度は飲み物を一個ではなく二個売ろうという意見が出て、また心配し始めました。このアイデアは、材料を一つか二つ同じ材料にしてコストを少しでも安くするというものでした。正直に言って、結構良い案だとは思いました。でも、本当に売れるのかどうか、味は大丈夫なのか、心配でした。本当に心配してばっかりでしたが、最終的には、結果オーライで、五百ドルの売り上げをあげることができました。

今年もまた完売して、本当に嬉しかったです。心配ばっかりでしたが、楽しかったし、高等部になってものみの市をまた頑張って今年よりも売り上げをあげたいです。今思うと、のみの市に参加できるのはあと二年。そして中等部として今年ののみの市が最後でした。何よりクラスメイトともっと仲良くなれた気がして良かったです。

のみの市を振り返って

中等部三年一組　ハナガン　すかいら

今年ののみの市は大成功であったと思う。私達のクラスは青色のソーダ水とレモネードを作り、ゲームではだるま落としを行った。ドリンクは簡単に出来、材料も結構集めやすかった。当日は多くの人達が来て下さり、たくさんの品物を買って頂いた。合計で五百ドル以上の募金が集まった。

中でも一番楽しかった場面が二つある。一つは、母がベーくセールで前もって買ってくれた焼きそばやお菓子を休み時間に食べたことだ。とてもおなかが空いていたので、昼食が美味しくてたまらなかった。

もう一つの場面は、他のクラスの売り物を見物していた時である。中一のクラスでは、バブルティーがとてもきれいな色で仕上がっていた。中三の二組は、バナナチョコに虹色のスプリンクルがのっていてとれも可愛かった。高等部のクレープは去年の時以上に美味しかった。来年ののみの市の開催を既に楽しみに思えた。



しかし、私は今年ののみの市で振り返ることも幾つかあった。一つめはクラスのミーティング中、あまり人の話を私は聞いていなかった点だ。もっと自分の意見を積極的にだすべきだったと今思う。もう一つは、休み時間が少し長引いてしまった事だ。友達と無駄話をし過ぎ、弁当を食べる時間を過ぎてしまったことだ。最後は、クラスの出し物の作り方をじっくり事前に確かめていなかったことだ。シロップと炭酸水の割合などを頭に入れていなかったので、実際作る時かなり焦ってしまった。しかし、当日ドリンクを五杯ほど作っていると、その問題は何とか解決できた。少しずつ慣れてきて、素早くドリンクを作れるようになった。

このイベントのお陰で私は、たくさんの事を学んだ。一番大切なレッスンは、チームワークだ。皆が時間を守り、それぞれが自分の仕事をすることで、のみの市が成功したのだと思う。これは小学生には絶対出来ないことだ。中高等部だか

らこそ、出来たのだ。家に帰ってから、のみの市に来てくれた家族から「楽しかったよ。」と言ってくれたので、それを聞いてさらに達成感を味わった。

募金を集めるのは難しかったが、補習校のみんなが集まって一緒に頑張れば三千ドル以上集められるのだ。これはとれも素晴らしいことだ。こんなことが出来る自分達を誇りに思う。来年も必ずのみの市に参加したいと思う。

小さなお客さんとチョコバナナ

中等部三年二組　　中村　真里菜

私が補習校に通っている楽しみの一つは、のみの市です。今年は私にとって三回目ののみの市でした。私達は二学期に入ってから、のみの市のために毎週　休み時間に準備してきました。三年二組の食べ物の出し物はチョコバナナで、ゲームはストラックアウトでした。のみの市の売上金は北海道の被災者に寄付をする事に決まりました。

のみの市委員がみんなのシフトを作りました。一番初めのお客さんは幼児部さんでした。幼児部のみんなが買い物に来た時、私は雑貨担当でした。幼児部の女の子が私達の雑貨コーナーに来ました。私は元々、知らない人と話すのが苦手です。それは大人の人だけではなくて、自分より小さな子も苦手です。



「何か欲しい物ある？」

と少し緊張しながら聞きました。でも何も返事がありませんでした。その子はハローキティの小さなタオルを取って、だまって私にスタンプカードを差し出しました。本当は幼児部さんが来たら「どのシールがいい？」と聞いて好きなシールを選んでもらおうかなと思っていました。でも少しドキッとして聞けませんでした。雪だるまのシールが好きかなと思ってスタンプカードにはってあげました。その子は、シールを見た後、何も言わないで他の売り場へ行ってしまいました。もしかしたら、その子も私みたいに少し緊張していたのかもしれません。

三年二組の食べ物の出し物は、チョコバナナでした。チョコバナナを作るのは、少し大変でした。チョコレートをきちんと溶かすのが難しかったです。金曜日の夜に作ったのですが最後の方にチョコレートが固まってきてしまい焦りました。一人十個作らなければならないのに、私は七個しか持っていくことが出来ませんでした。売り場でもアイスパックに入れていたのに、チョコレートが溶けてきてしまったものがいくつかありました。でも、私達のお店はいつもお客さんがいて忙しかったです。チョコバナナという食べ物がめずらしかったのかなと思います。多分、去年もその前の年もなかったと思います。それと値段が一ドルだったので、他のクラスの出し物に比べて安かったからかもしれません。



来年は高等部になります。中等部の後輩のいいお手本になれるように、幼児部や一年生のお客さんがお買い物に来た時に声をかけることが出来るようにがんばりたいと思います。

失敗して学んだこと

中等部三年二組　　柴田　紗良



「今年は失敗だったか」私はそう思いながら帰る用意をした。中三だというのに、中一のクラスよりも売り上げが低く、とても悔しかった。中等部最後の年だったのでもう少し成功して欲しかったが残念ながらそうはいかなかった。

今年の蚤の市は用意の時点からあまりうまくいっていなかった。たくさんのことを後回しにして、最後にギリギリで用意することになってしまった。私は蚤の市委員だったので今年の蚤の市で失敗したことにとても責任を感じている。今思うと「こうしておけばよかった」や、「あの時あれをしていなければうまくいっていたのに」と後悔することはたくさんある。けれどもうやってしまったことなので来年同じようなことをしないようにするしかない。

私たちのクラスが選んだ食べ物はチョコバナナで、簡単そうで意外と作るのが難しい食べ物だった。クラスの中でたくさんの子たちが実験をしてくれて、最後にやっとレシピが決まった時は嬉しかった。その子たちが協力してくれなければ私たちのクラスの出し物は成立しなかったのでとてもありがたかった。けれどそのレシピが決まったのも蚤の市当日の一週間前ほどでギリギリだった。私たちはチョコバナナが溶けてしまうこともあまり考えていなく、当日何十本も溶けてしまった。ちゃんと前もって計画を立てておけば失敗しなかったかもしれないのでそれも後悔している。

けれどこの失敗の中でとても感謝していることがある。それは何人かのクラスメートや先生が協力をしていろいろなことを手伝ってくれたことだ。チョコバナナのレシピを作るのに何回も実験をしてくれたクラスメイトや誰も材料を買いに行きたくない時に立候補してくれた子がいなければ私たちのクラスはチョコバナナを売ることができなかったかもしれない。チョコバナナだけではなくゲーム作りにもたくさんのクラスメイトが協力してくれた。



今年の蚤の市の結果あまりうまくいかなかったけれど、今年の失敗を来年繰り返さないようにしたいと思う。来年は、高等部で下の学年も引っ張っていかなければいけないので、今年よりも大変になると思う。けれど高二と協力して来年こそは成功させたい。

のみの市

高等部一年　若松　みなみ



今年は高等部に入って初めてののみの市だ。補習校に入ってからは二度目なので、去年に比べて緊張や心配は少なかった。当日までにゲームの計画、クレープの材料などをのみの市委員を中心に話し合いを進められた。委員会では高等部が前に立って司会をしたり、下級生への説明をしたりと責任が増えたなと感じた。

のみの市当日の一週間前、幼児部のクラスにお誘いに行った。人前で話すのが苦手なので少し緊張していた。しかし幼児部の子たちは一生懸命話を聞いてくれたり、たくさんの質問をしてくれて嬉しかった。そしてのみの市への期待がどんどん大きくなった。前日はみんなで集まってクレープの生地を作った。協力して効率よくできたし、映画をみんなで見たりして楽しかった。

そしてついにのみの市当日になった。朝から順調に準備を進め、まだ本番という気がせず実感がわかないまま準備が終わってしまった。私の始めの担当は雑貨だった。今年からはコインの代わりにシールを使うようになって分かりやすかった。ドタバタした状態のまま、幼児部の子たちが一斉にカフェテリアに入ってきた。小さい子が怖がらないように目線を合わせることを意識した。すごく純粋で、どれを買おうか真剣に悩んでいてとてもかわいかった。「何かほしいものはある？」など声を積極的にかけた。一人の男の子が「シール全部もらったよ！」と笑顔でカードを見せてくれて、本当に楽しんでくれたんだなと私まで嬉しくなった。ゲームでは成功しても失敗しても歓声を出して盛り上げた。

次の役割は宣伝だ。玄関近くで初等部の親子にできるだけ大きな声で呼びかけた。しかしあまり効果はなく帰ってしまう人が多かった。それでも少しでも多くの方々に来てもらおうとあきらめないで声を出し続けた。

ついにクレープ担当になったが人手が足りなくて大変だった。特にどのトッピングをのせるのか聞いて覚えるのが難しかった。列があっても焦らず落ち着いてクレープを作るようにした。最初はクレープを折るのがとても下手だったけど上手に折れるようになった。幅広い年代のお客さんが並んでいる姿を見て作りがいを感じた。



今回ののみの市はあっという間に終わってしまった。ローテーションがうまくできていなかったり、人によってクレープの作り方たが違ったりなど反省点がたくさんあった。今年の反省点を生かして来年はもっと良いものにいたい。悪いところばかりではなく下級生・幼児部の子たちと関わるとても良い機会になった。また高等部で協力することができたし、補習校をやめてしまった友達も来ていてやっぱりみんな仲が良いんだなと感じることができた。もうすでに来年ののみの市が楽しみだ。

最後ののみの市

高等部二年　　保山　健人

先週、僕は人生最後ののみの市を行いました。今までの中で一番楽しかったのみの市でした。なぜなら、今回初めて、僕の学年は本当に一つになれたからだと思います。今までののみの市では団結力は見えていたのですが、いつも最終的準備は個人個人の家で整えてきていました。しかし、今年ののみの市では、最後のせいか準備に皆がすごく夢中になって、クレープ作りもみんなでクラスメートの櫻井君の家に行って、三時間かけて頑張って作りました。

僕は去年の高校二年生たちを見ていてすごく憧れました。全員がすごく仲が良くて、よく補習校外での時間も一緒に過ごしていて、特に謝恩会で見た、去年の生徒会長が作った補習校をやめた中学校からの生徒たちからのメッセージが入ったビデオを見て、僕の学年もこれほど仲良くなればいいなと思いました。

それから何か月か経ち、何回か補習校外で集まる計画も立てたが、結局なにもやりませんでした。去年ののみの市でもクレープをクラスメートの家で作るはずだったのですが、その時も何も計画が完全に成り立たず、最終的には個人の家で作って来ました。今年も初めは計画があまりたたなかったので、同じような状況になる様子で心配でした。

しかし、保護者の方々から少し手伝ってもらい、今年は櫻井君の家で皆でクレープを作ることになりました。それ以外に、高等部の出し物のゲームはクラスメートのヘイズ君の案になりました。普段からはあまり発言をしない僕のクラスが、案を出すだけでなく、高等部全員の出し物がその案に決まったのを見て、少し驚き、感動しました。だんだん大人に近づくにつれて、僕たちもだんだん人として成長したことが見えてきたのです。

最後ののみの市が自分たちの成長を感じられるものになったことが、何より嬉しく感じました。



